

## 第 77 回 企業活性化研究分科会・議事録

＜第七七回 2015 年 4 月 11 日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学（神田校舎）＞

参加者：井端、大野、木村、小林、杉本、夏目、浜田、宮川、山本（9 名）

1. テーマ：再生企業の分析—株式会社クリーク・アンド・リバー—

・報告者：杉本敦彦 ・配付資料：6 枚

・報告内容の要旨

本報告は、株式会社クリーク・アンド・リバー（以下、C&R 社とする）による架空循環取引の要因を追求し、ROA を中心に収益性分析を行なった。

今回の架空循環取引は、C&R 社の連結子会社である株式会社リーディング・エッジ（以下、LE 社とする）が中心となり、受注先企業の資金繰りに対する支援と業績の改ざんを目的として行われた。当該取引を可能とした背景には、LE 社におけるコンプライアンス意識の欠如、管理・規律の不備、そして、C&R 社全体のグループ管理体制の不備があげられる。それゆえ C&R 社が主導でグループ全体における管理体制の再構築が行なわれる必要性を議論した。また C&R 社の収益性分析において、ROA は 2002 年から 2005 年において低い数値であったが、近年は上昇傾向へ転じていた。それゆえ本報告においては企業再生に向かっていると判断した。しかし、ROA が低い理由や、近年の上昇傾向に転じた理由等の説明、C&R 社の主力事業であるコンテンツ・ビジネス、コンサル業務の業務内容、収益構造の分析を十分に行う必要があるとした。その内容をもとに ROA、ROE への変動要因を明らかにすることが今後の課題となる。

2. テーマ：『統計的手法による粉飾発見法』

・報告者：井端和男 ・配付資料：25 枚

・報告内容の要旨

本報告では、売上高との関係性が高いと考えられる売上債権と棚卸資産を中心とした統計的分析による粉飾の発見方法を提示した。具体的には、回帰分析と相関分析をもちいた統計的分析である。回帰分析では残差による回収状況の調査、切片による滞留不良資産の推定を行う。相関分析では残差間の自己相関係数により、回収の良否を調査した。また、両分析の効果を図るため、実例によるケーススタディとして、売上債権と棚卸資産について粉飾の発表企業、売上債権に特異な動きがある企業、正常な動きがある企業の計 8 社を対象に分析を試みた。統計的手法を用いた分析の結果、不良債権発生の場合には切片が上昇すること、回収状況に変化が生じた場合には勾配が上昇することが推察可能となった。

3. 今後の予定について

・5 月 9 日（土）分析企業・日本風力開発株式会社— 渡邊先生

・6 月 6 日（土）第 15 回年次大会報告者のための報告内容の確認 高市先生、夏目先生

・6 月 13 日（土）危機管理システム研究学会第 15 回年次大会（立教大学池袋キャンパス）

（文責：浜田勇毅）